

しぜんと ふれあう

～自然を守ることからCO2削減を考える～

校種・学年	小学校・第1学年	教科等	道徳科「たのしかった ハイキング」
時間・学期(月)	1時間・後期前半(11月)	副読本	P14
準備等	教科書 ワークシート		

1 わらい

自然に親しみ、動植物に優しく接することができるようにする。自然が失われていくことも地球温暖化が進んでいるひとつの原因ということを知り、自分たちができることを考えていけるようにする。

2 伸ばしたい資質・能力

- 自然のもつ不思議さや、生命力に気づく。(道徳的価値の理解)
- 自然のもつよさについて話し合うことで、自然の大切さや必要性を考えられるようにする。(多面的・多角的に考える)
- 自然とともに生きていることのいとおしさなどを感じるにより、自然や動植物を大事に守り育てようとする意識を高める。(自分の生き方に結びつけて考える)

3 指導計画(全1時間)

時間	主な学習活動・内容等
1	○自然の中で遊んだり、親しんだりした経験について、話し合う。 ○「たのしかった ハイキング」を読み、自然のもつよさについて考える。 ○これから自然の中でどのように過ごしていきたいかを、考える。

4 本時の学習指導(本時 1/1)

時間	学習活動	留意点 ★冊子の活用等
5	【導入】 ○秋といえばどんな自然があるか伝え合う。 ○自然の中で今までどんな遊びをしたことがあるか発表する。	★P14 ○自然のよいところを話し合う活動を通して、二酸化炭素を吸収する植物の大切さに気づくようにする。
25	【展開】 ○木の幹に耳を当てて聞いてみた時、「ぼく」はどんな気持ちだったか考える。 ○落ち葉の上に寝っ転がった時、「ぼく」はどんな気持ちだったか考える。 ○自然のどんなところがよいか話し合う。 ○地球温暖化について知る。	
15	【終末】 ○これから自然の中でどのように過ごしていくのか考える。	

5 他教科等とのつながり

- 生活科「たのしさいっぱい あきいっぱい」「ふゆをたのしもう」
- 図画工作科「しぜんと なかよく」

6 社会とのつながり

- 家庭や地域の人たちとの対話

7 おすすめのポイント（さらに、効果アップ！）

○秋の素材を使ったおもちゃ作り（生活科）、今月の歌「もみじ」（音楽科）等の他教科と関連させながら、自然のもつよさを具体的に感じられる体験を積み重ねていけると、実感が持てる。

8 授業後の児童の感想、参観された方の感想など

- きれいで楽しい自然を、大切にしていきたい。
- きれいな空気をつくってくれる自然を守っていきたい。
- 自然がなくなったり、汚れてしまうと、自分たちも困ってしまう。自分ができることを少しずつやれたらいいなと思った。

9 研究協議の内容

- 副読本との関連
- 自然を大切にすることを漠然と捉えるのではなく、自分のこととして考え、できることを考えさせる工夫。
- 自然の減少や破壊が、地球温暖化の一因となっていることを理解させる工夫。